



なんなる小

町田市立南成瀬小学校
042(726)1080
学校便り11月号② No.11
2019年11月20日(水)
校長 鱒坂 映子

<http://www.11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310190>

体力テスト及び全国学力・学習状況調査（6年）、東京都学力向上を図る調査（5年）の結果について

本年度実施された体力テストの結果について

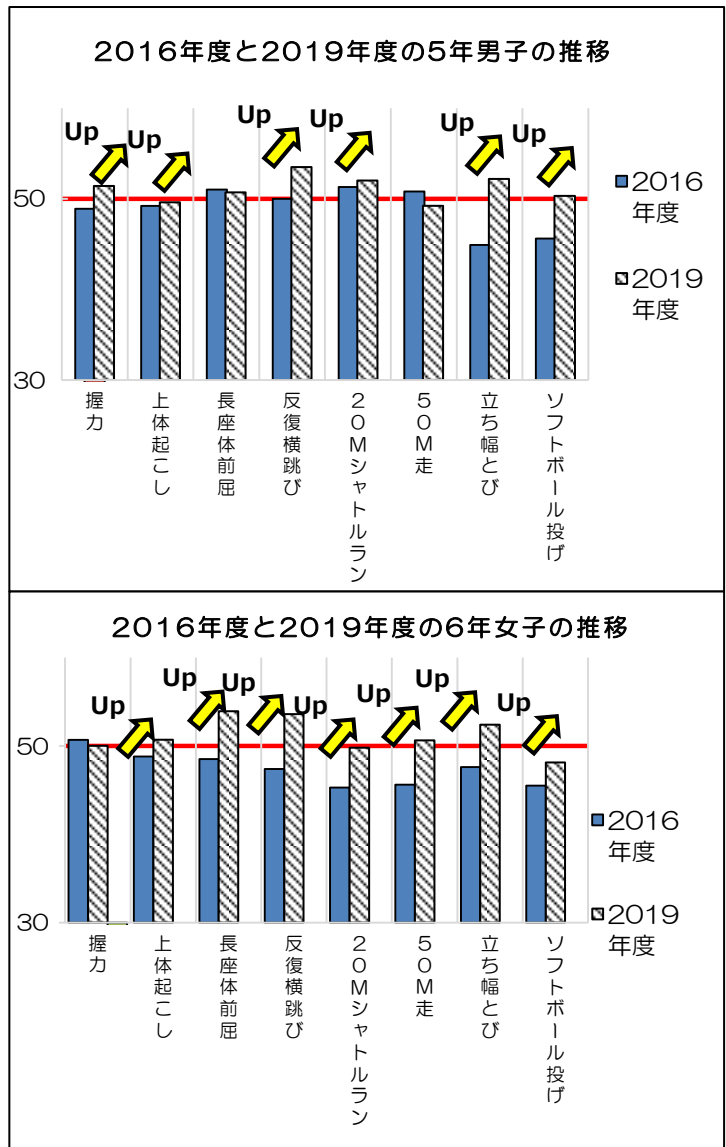
6月に全校で実施した、平成31年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（通称：体力テスト）の結果が出ました。本校では、一学年一取組として、毎年の体力テストの結果をもとに、前年度の結果と比較・考察し、伸ばしたい項目や力を明確にするとともに、その項目や力を伸ばすための取組を行っています。特に、本校は、コーディネーショントレーニング(COT)地域拠点校3年目を迎え、体育の授業はもちろんのこと、体育集会やマラソン期間等でもCOTを導入し、学校全体で継続的に取り組んできました。

今年度は高学年及び男女に焦点を絞り、その結果を御紹介します。

右のグラフは、COTを始める前の2016年度と今年度の5年生男子と6年生女子の平均記録を比較したものにしました。高学年は、COTを3年間積み重ねており、Sの字運動、くの字運動、ラディアンなどは、形も綺麗にできるようになりました。正しい動きを身に付けたことで、体力テストの数値も向上したものと思われます。3年前と比べ、5年生男子は6項目、6年生女子は7項目において、向上が見られました。COTを行うことで、運動に必要な動きの巧緻性が大きく身に付きます。そのため、反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げで伸びが期待され、その成果が数字として表れています。

一方で、瞬発力・柔軟性・持久力などが、本校での課題となります。持久力については、本日より始まったランなる期間の継続により、向上を目指しています。瞬発力や柔軟性などは、体育の体づくり・体ほぐしの運動などで、さらなる向上を目指していきたいと考えています。

(文責：体育的行事委員長)



本年度実施された全国及び東京都の学力調査の結果について

＜全国学力・学習状況調査（6年）＞

4月の全国学力・学習状況調査では、6年生を対象に、国語、算数、及び質問紙調査が実施されました。本校は、実施された教科に関する全ての項目で全国及び都の平均を、上回りました。その結果から、基本的な知識が定着し、その知識を活用する力も身に付いてきていることが分かりました。

質問紙調査（下表）では、「寝る時間」「起きる時間」の質問で、肯定的な回答が全国平均を上回りました。これは、本校で取り組んでいる「家庭学習・生活習慣見直しウィーク（なんなる一番星）」などをきっかけに、家庭での生活習慣が改善されてきていると考えられます。

一方、本に親しむ機会が少ないことが課題となっています。本年度は、国語の授業にビブリオバトルを取り入れており、なんなるの100冊完読に向けた取組も推進しているところです。また、中学校進学に向けて、自分で計画を立てて勉強する時間を増やしていくことも大切です。ご家庭でも、本に親しむ機会をつくったり、家庭学習の取組について話し合ったりしてみてください。

＜表＞児童質問紙回答

質問	本校	全国
毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。	82.9	81.4
毎日、同じくらいの時間に起きていますか。	93.4	91.6
読書は好きですか。	72.4	75.0
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	65.8	71.5

＜東京都児童・生徒の学向上を図るための調査（5年）＞

7月の東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査では、5年生を対象に、国語、社会、算数、理科、及び質問紙調査が実施されました。本校は、社会、算数で都の平均点を上回りました。一方で、国語、理科では、平均点をやや下回る結果になりました。

国語では、漢字や慣用句、ことわざなどの基本的な言語事項の定着を図っていく必要があります。引き続き、モジュール学習や日頃の漢字テストなどの取組を推進していきます。

理科では、実験の仕方や結果をノートにまとめたり考察したりする力を高めていく必要があります。本年度より、本校は校内研究で理科を扱っています。科学的な思考・判断・表現力を高め、観察・実験の機会を確保し、理科の授業の充実を図っていきます。

また、質問紙調査と各教科の正答率関係では、「授業で発表する機会がある」と答えた児童ほど、正答率が高いことが分かりました。今後も、日々の授業で、自分の考えを説明したり文章にまとめたりする活動を行い、相手に伝わるように表現する力を伸ばしていきたいと考えています。

（文責：学力向上推進委員長）

＜表＞観点別の調査結果

教科	思考・判断 表現	技能	知識・理解	読む
国語	△	△	△	△
社会	○	◎	◎	
算数	○	△	○	
理科	○	△	△	

都の平均＋3ポイント以上…◎
都の平均以上…○
都の平均以下…△

＜表＞質問紙調査と各教科の平均正答率の関係

授業で発表する機会がある	国語	社会	算数	理科
肯定的な回答の児童 「ある」または 「どちらかと言 えばある」	65.0	72.8	62.0	56.1
否定的な回答の児童 「ない」または 「どちらかと言 えばない」	48.5	59.1	52.1	49.3

全ての教科において、肯定的な回答をした児童の方が教科の正答率が高いことが分かる。